

西洋史特殊講義1Cー I

科目ナンバリング HEA-201
選択必修 2単位

1. 授業の概要(ねらい)

現代の歴史学においては、ジェンダー視点による研究が不可欠となっている。これまで男性視点から、あたかもそれが客観的かつ中立であるかのように書かれたり解釈されてきた歴史を読み直し、古代ギリシア・ヘレニズム史をジェンダー視点から再解釈していく。ここで得られた方法論は、これからあらゆる場面で活用できるはずである。

2. 授業の到達目標

古代史料をジェンダー視点で解釈し、それを的確に表現できること
ジェンダー論の意義を正確に理解し、従来の男性視点による研究を批判的に読解できること

3. 成績評価の方法および基準

中間試験40%、期末試験60%

4. 教科書・参考文献

教科書

毎回プリントを配布する

5. 準備学修の内容

授業終了後にプリントとノートを読み直しておくこと

6. その他履修上の注意事項

毎回小さな課題で答案を書いてもらい、その提出をもって出席を認定する

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
古代ギリシア史概説・ジェンダー史研究の意義
- 【第2回】 アテネにおける女性の社会的地位
- 【第3回】 女性の宗教活動:テスモフォリア祭とディオニュソス崇拜
- 【第4回】 法廷弁論にみる女性の日常生活
- 【第5回】 女流詩人サッフォーの作品を読む
- 【第6回】 喜劇作品に描かれた女性たち:「女の平和」「女の議会」
- 【第7回】 プラトン・アリストテレスの国家論における女性
- 【第8回】 前半のまとめと中間試験
- 【第9回】 古代マケドニア王家の一夫多妻
王妃エウリュディケ
- 【第10回】 王妃オリュンピアス:アレクサンドロス大王の母
- 【第11回】 アレクサンドロス大王の姉妹たち
- 【第12回】 アルシノエ2世:プトレマイオス朝と兄弟姉妹婚
- 【第13回】 クレオパトラ7世:エジプトとローマの狭間で
- 【第14回】 ビザンツの皇妃テオドラ
- 【第15回】 後半のまとめと期末試験